

令和6年度第2回広島県子ども・子育て審議会 計画部会における
「ひろしま子供の未来みんなで応援プラン（仮称）」素案に係る意見の概要

1 日時・場所

令和6年11月7日（木）10：00～11：10 WEB会議

2 出席委員

区分	所属団体	役職名	委員	備考
保護者	広島県PTA連合会	副会長	生田 真紀	
子育て 支 援 事業者	広島県保育連盟連合会	副会長	三須 朋子	欠席
	公益財団法人広島県私立幼稚園連盟	理事長	山中 隆司	欠席
	広島県学童保育連絡協議会	児童館館長	平松 ゆう子	欠席
	広島県児童養護施設協議会	副会長	高井 竜司	
	一般社団法人広島県手をつなぐ育成会	広島市安佐北区支部副支部長	山竹 紀子	
	広島県高等学校長協会	会長	山垣内 雅彦	
有識者	一般社団法人広島県医師会	常任理事	石川 暢恒	欠席
	広島大学	副学長（ダイバーシティ担当）	石田 洋子	部会長
	比治山大学現代文化学部	准教授	大里 弘美	
	広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科	教授	竹林地 毅	

3 「ひろしま子供の未来みんなで応援プラン（仮称）」素案に対する主な御意見

【総論】

意見
子供の成長において食は大変重要な要素であり、それがままならない子供たちに支援が行き届く仕組みづくりをしてもらいたい。そういったなかで子供と接点がある学校には重要な役割があると思うので、フォローをしっかりとっていただきたい。
プランの方向はいいが、いつまでに何をどこまでやるのかという具体的なところは各担当部局が進めるのだと思う。プランの目指す姿と具体的な取組がうまくリンクするよう、関係部局で連携して推進していただきたい。

【領域Ⅰ 子供たちの資質・能力の育成】

意見
こども誰でも通園制度は子供が一人で園に預けられる制度だが、親子で登園し子育ての不安解消等に向けた施策を取り入れた制度に拡大・拡充していく事も必要である。また、保育現場に期待される機能の拡充に伴い、保育現場が多忙により疲弊しない様な支援体制も必要とされる。
主体的な学びは、総合的な学習を中心に探究的な学びが進んでいるととらえている。今後は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業を行うことで、各教科でも探究的な学び、主体的な学びがさらに進むよう期待している。

【領域Ⅰ 子供たちの資質・能力の育成】(続き)

意見
キャリア教育の推進について、職場体験の質の向上や、職業を知ってもらうための出前授業などは良い取組だと思う。子供たちが将来への見通しを持つことが前向きな学びを一層進めると考えているため、今のような取組をもっと発展させ、できるだけ多様な産業を知り、地域の方との触れ合いが進むよう期待している。
子供を持ちたいという希望の実現に向けて、約9割の方が公費負担がさらに必要と考えており、経済的な負担・不安の払拭が出生率の向上に重要であるため、他県に先駆けて県独自の支援策を掲げてはどうか。

【領域Ⅱ 安心して子供を持つことができ、子供たちが健やかに育つ環境づくり】

意見
保育現場の機能の充実とその活用によって、多様性が出てくる一方で、保育現場での働き方改革の遅れが懸念される。より一層の処遇改善と要件の緩和を望む声は多いと考える。

【領域Ⅲ 配慮が必要な子供たちとその家族への支援】

意見
児童養護施設には児童自立支援施設(広島学園)で生活させたい児童が多数いるが、なかなか受け入れてもらえず、各施設で、児童養護施設間での措置変更で対応している。専門性がある施設の協力が必要なため、施設との連携を含めた広島学園の在り方について、検討を進めていただきたい。
特別支援学校の施設・設備面での充実は、職業教育やキャリア教育を進める上でも大きな要素であり、将来のことを考えて発展的な形になるように進めていただきたい。 また、老朽化している学校や、立地の面で防災への不安がある学校もあり、将来的にどうしていくのか、大きなプランを考えていくべきである。
素案の「障害のある子供等への支援」のなかで、「児童生徒の実態に応じた指導」「教育的ニーズを的確に把握」「障害の状態に応じた指導」などの表現が使い分けられているが、より広い意味の「教育的ニーズに応じた指導を実現」という表現のほうがいいのではないかと思う部分がある。特に、個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用は、「教育的ニーズに応じた指導」という文脈のほうが将来に広がりがあると思うので、改めて表現の仕方や考え方も検討いただきたい。